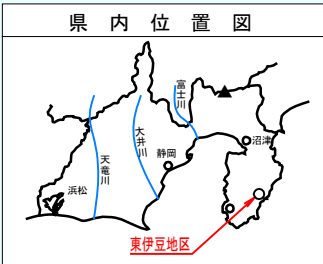
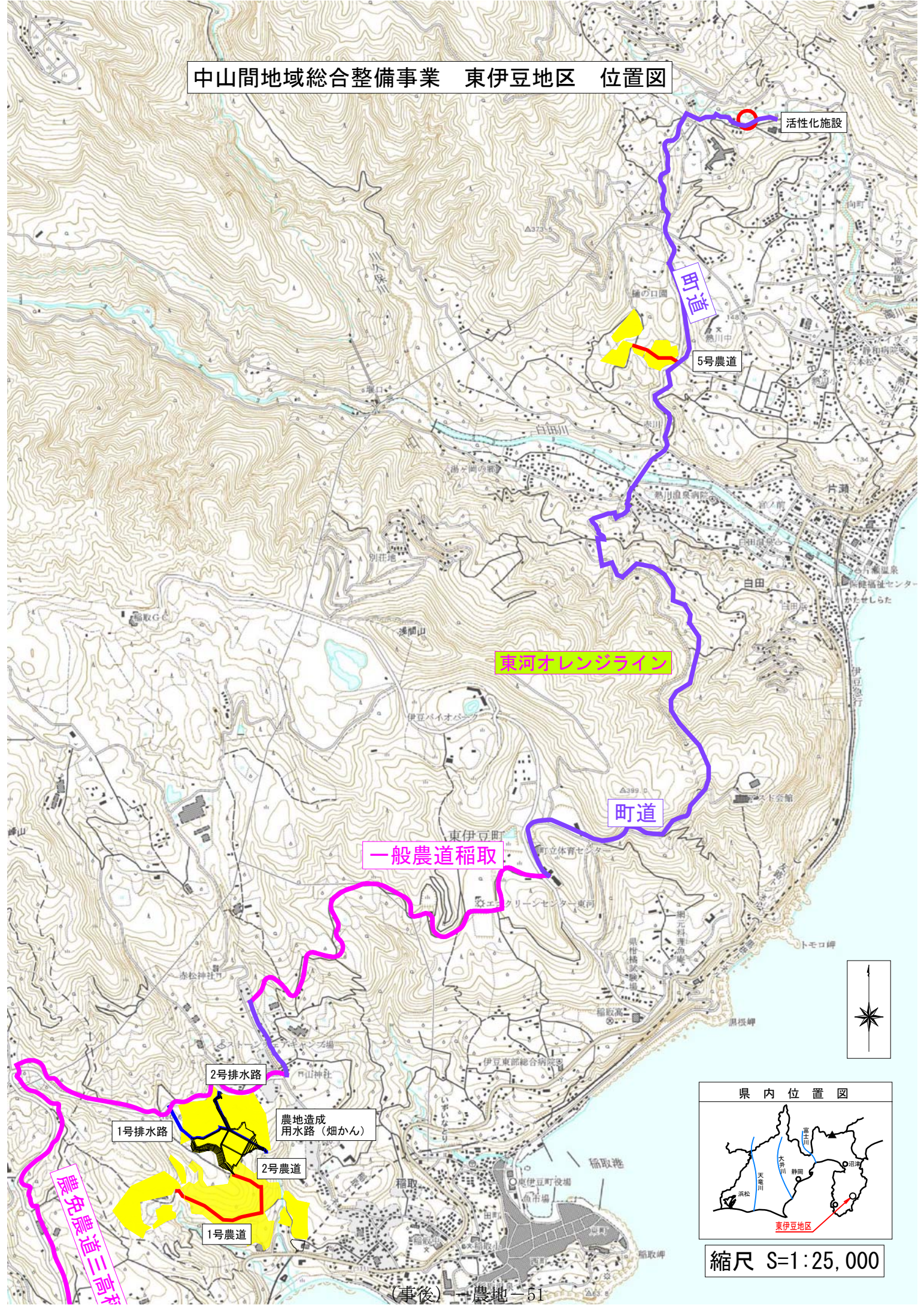


番号	16	平成26年度公共事業事後評価調査			担当課名[農地保全課]		
事業名	中山間地域総合整備事業（一般型）			事業主体	静岡県		
箇所名	ひがし いず 東伊豆			市町名	東伊豆町		
事業概要							
受益面積	41.5ha	採択年度	平成15年度	完了年度	当初実績	平成20年度 平成20年度	
事業費	前回	848百万円（H18計画変更時）		実績	719百万円		
事業量	用排水路工 L=2,515m、農道工 L=1,637m、農用地開発 A=6.3ha、活性化施設工 A=135㎡						
事業の目的・必要性							
<p>東伊豆町は静岡県東部の伊豆半島東海岸中央部に位置し北側と伊東市、西側は伊豆市、南側は河津町に接している。町全体の80%が山林及び原野となっており、本地域も中山間地域となっている。</p> <p>温暖な気候に恵まれているが地形的に平坦地が少なく傾斜が多い小規模経営である。地形的制限から生産条件が不利な地域であり、地域の活力は失われつつある状況にあった。このため、「農村振興基本計画」に基づき、農業生産基盤及び生活環境基盤を整備し、地域の自然環境や特産物などの特性を生かした都市住民との交流を進め、「ゆけむり・潮騒・森林浴・自然が湧き出る温泉郷 みかんの丘の東伊豆」として地域の活性化の促進・県土・環境の保全を図った。</p>							
事業の効果等							
費用対効果 分析結果	計画 変更 時 (H18)	B/C	総費用	8.1 億円	総便益	11.0 億円	基準年
		1.36	事業費： （再整備費等： 関連事業費：）	7.2 億円 — 億円 0.9 億円	（農業生産向上効果： 農業経営向上効果： 生産基盤保全効果： 生活環境整備効果：）	2.4 億円 5.3 億円 0.6 億円 2.6 億円	平成18年
	事後	B/C	総費用	8.8 億円	総便益	13.8 億円	基準年
		1.57	事業費： （再整備費等： 関連事業費：）	7.7 億円 1.1 億円 — 億円	（食料安定供給確保効果： 農業持続的発展効果： 農村振興に関する効果： 多面的機能発揮効果：）	9.2 億円 0.7 億円 1.0 億円 2.9 億円	平成25年
<p>1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化</p> <p>・土地改良事業の費用対効果分析マニュアルの改正による評価期間、便益等分析手法の変更に伴い総費用、総便益が増加。</p> <p>①農用地開発により付加価値の高い作物の導入及び効率的な農作業が可能となった。</p> <p>②農道整備により営農労力と時間の削減が図られた。</p> <p>③活性化施設整備により都市農村交流が活発となり、地域が活性化した。</p>							
2) 事業効果の発現状況							
事業効果項目		事業効果内容			便益額		
食料の安定供給の確保に関する効果		・作物生産効果 用排水の改良及び農地造成により、水管理が計画的に行われ単収が増加する効果。			2.0億円		
		・品質向上効果 農産物運搬時の損傷を軽減することによって品質が向上する効果。			0.3億円		
		・営農経費節減効果 営農体系、規模等の変化で作物生産に要する費用が増減する効果。			2.6億円		
		・維持管理費節減効果 施設の新設・更新により施設の維持管理費が増減する効果。			△0.1億円		
		・営農に係る走行経費節減効果 農道を整備することにより、農作物の生産に必要な資材や農産物の輸送、通作など農業交通が節減される効果。			4.3億円		
農業の持続的発展に関する効果		・災害防止効果（農業関係資産） 排水路整備により、災害の防止又は軽減が図られる効果。			0.7億円		
農村の振興に関する効果		・一般交通等経費節減効果 農道を整備することにより、一般交通の走行に係る人件費や車両経費などを節減する効果。			1.0億円		
多面的機能の発揮に関する効果		・都市・農村交流促進効果 活性化施設を整備することにより地域レクリエーションの拠点として地域住民に憩いの場を提供し又は観光資源として利活用できる効果			2.9億円		
地域独自の効果		・生産基盤の整備により耕作放棄が抑制される効果。			-		

事業により整備された施設の管理状況
<p>(1) 排水路、農道、活性化施設</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設管理者である東伊豆町により適切に管理が行われている。 <p>(2) 農業用水施設、農用地開発</p> <ul style="list-style-type: none"> 草刈等の日常管理は関係地権者を中心とした地域住民により適正に管理されている。
事業実施による環境の変化
<p>(1) 農業生産の環境（農道・用排水路・農用地開発）</p> <ul style="list-style-type: none"> 農道が整備されたことにより、通作、出荷に係る時間短縮し、営農経費の節減が図られた。 農用地開発、農業用排水路の整備により、付加価値の高い作物導入が可能な農地団地が創設され、従来から生産されている柑橘類に加え、新たに施設園芸による花卉類の栽培も始まった。また、農用地開発地では担い手農家が育成されており、町内の他地区と比較しても、後継者が確保されている。 <p>(2) 農村の生活環境（活性化施設）</p> <ul style="list-style-type: none"> 近接する農村公園と併せ平成21年5月にオープンした活性化施設「きぼうのやかた」が地域の拠点となり、様々なイベントが開催され、交流活動が盛んとなった。 活性化施設のオープニングイベントで行った「里の朝市」や地域住民が中心に行っている「ホテル観賞会」が、活性化施設を拠点としたイベントとして定着し、町内外から本施設を訪れる人が増加している。
社会経済情勢等の変化
<p>(1) 地域社会の動向</p> <ul style="list-style-type: none"> 東伊豆町の人口は平成15年度は15,355人であったが、平成24年度は13,540人と年平均で約1.4%づつ減少している。また、年間の観光交流客数も平成15年度は約240万人であったが、平成23年3月に発生した東日本大震災の影響により平成23年度は約159万人まで落ち込んだが、平成24年度は約163万人と回復傾向にある。 東伊豆町も「細野高原」などの新たな観光資源のPRを積極的に行っており、活性化施設を含めた町内の観光施設と連携して、交流人口の増加を図る取り組みが行われている。 <p>(2) 地域経済の動向</p> <ul style="list-style-type: none"> 東伊豆町全体の観光交流客数が減少する中、本地域では活性化施設の設置をきっかけにしたイベント等が定着し、活性化施設を利用する人数は毎年増加している。 本地域は、温室みかんを含めると、年間を通して柑橘類の収穫・出荷を行っている。特に近年は、賀茂地域特産のニューサマーオレンジの他、農用地開発地では、はるみや完熟栽培ネーブルなど、特色ある柑橘類の栽培に取り組んでいる。 近年、町の主要産業である温泉資源を活用した観光業とオレンジ狩りやイチゴ狩りなどの体験農業が連携した、着地型観光が進みつつある。
対応方針（案）
<p>(1) 評価結果</p> <p>効果は十分に発現しており、改善措置の必要はない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業基盤整備により、地域の中核的な農家が育成され、カーネーション栽培等新たな取り組みも行われている。 活性化施設も、計画時の利用計画人数を上回り、毎年利用者数が増加傾向にある。また、近接する奈良本けやき公園で「里の朝市」「けやきマルシェ」が定期的開催されるなど、今後も交流の拠点施設としての活用が見込まれる。 <p>(2) 今後の課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> 東伊豆町から活性化施設の指定管理者として管理・運営を委託されている団体が、活性化施設を活用して加工品の開発を行っているが、まだ、商品のブランド化が進んでいない。 引き続き農道整備事業「稲取地区」、中山間総合整備事業「東河地区」を実施し、農村振興基本計画の実現を図る。 <p>(3) 同種事業への反映等</p> <ul style="list-style-type: none"> 本県の中山間地域は、本県の主要な農産物である柑橘類等の重要な産地であると同時に、農業生産活動を通じて、多面的機能（生態系の保全、水源涵養、洪水の防止等）を果たす役割を担っている。今後も、集落が維持できる営農条件の確保や都市農村交流の拡大に向けた整備に取り組んでいく。

中山間地域総合整備事業 東伊豆地区 位置図

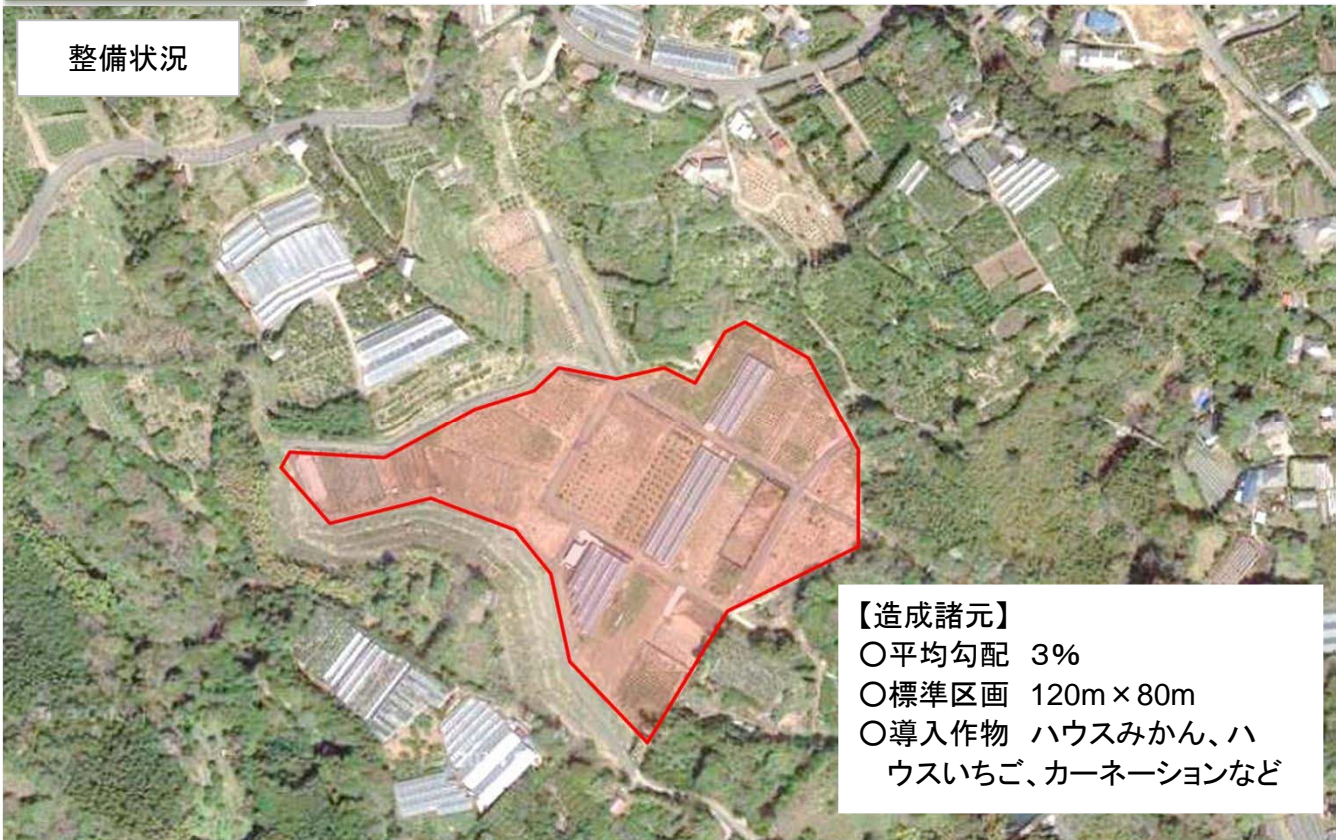


縮尺 S=1:25,000

中山間地域総合整備事業東伊豆地区 事業効果

農用地開発

整備状況



【造成諸元】

- 平均勾配 3%
- 標準区画 120m×80m
- 導入作物 ハウスみかん、ハウスいちご、カーネーションなど

【従前】



急傾斜で生産性の低い樹園地

【従前】

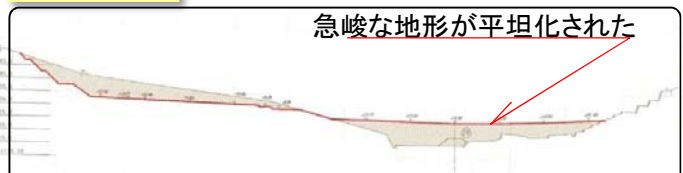


樹園地

耕作放棄地

道路に沿っていない農地は耕作放棄地が広がっていた

【実施後】



急峻な地形が平坦化された



給水柱の設置により水管理が容易となる

平坦で大区画のほ場を整備

イチゴ



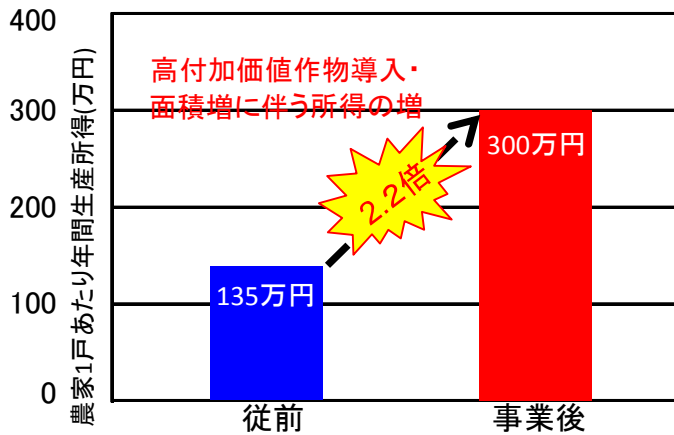
カーネーション



高付加価値な施設作物が導入された

農用地開発の事業効果

農用地開発による生産所得の増



農用地開発によりカーネーション、イチゴ等高付加価値の作物が導入された

【担い手農家による営農展開】



全国カーネーション大会視察会場となった (H26.1)

他地区に比べ認定農家や後継者も多く優良地区に成長

農道整備

【従前】



車両が進入できない耕作道路

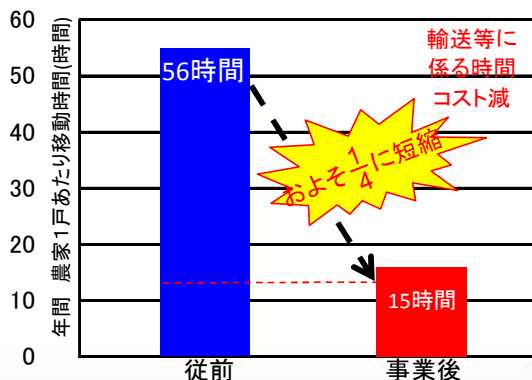
【実施後】



車両が乗入できることとなり通作(防除・かん水作業) 輸送(収穫作業)の作業効率が向上した

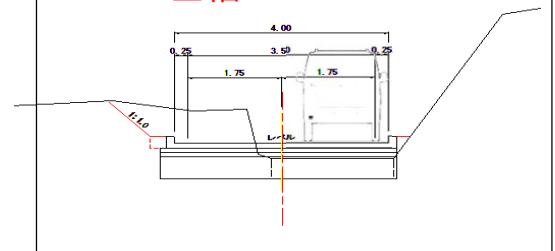
農用地開発の事業効果

農道整備による移動時間等の減



農道標準断面図

全幅 W=4.00m



ふじのくに食の都づくり Land of Fuji, Food Capital of Japan

静岡県交通基盤部農地局

活性化施設整備

活性化施設「きぼうのやかた」により新たなコミュニティが形成し地域が活性化した

【都市農村交流が活発化する立地条件】



周囲には温泉資源を活用したリゾートマンション、別荘、保養地が多い。近年はリタイヤしたシニア層、首都圏へ通勤する住民が多い

■賑わいを見せるイベント「里の朝市」



施設では地場産品の販売が盛んに行われている

■広がりを見せる各イベント・体験等



ふるさと学級



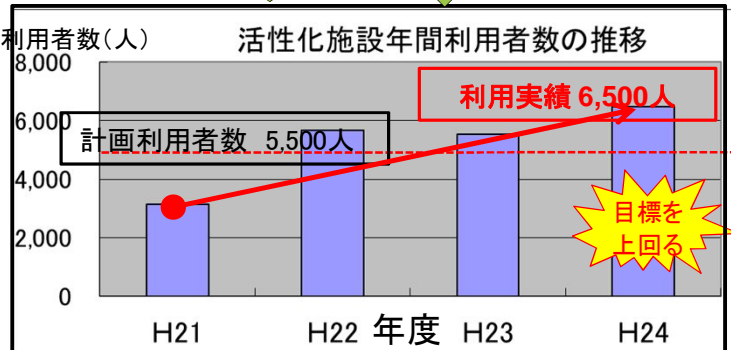
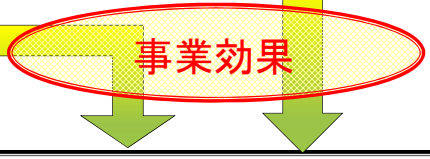
ホテル採取体験



地場産品の加工体験



陶芸教室



ふじのくに食の都づくり Land of Fuji, Food Capital of Japan

静岡県交通基盤部農地局